連携広報誌 山陰労災病院
微風 そよかぜ
No.76

山陰労災病院の理念
「信頼・優しさ・安全」

私たちは、信頼される・優しい・安全な医療を提供し、
地域の皆様と勤労者の健康を守ります。

今号の内容

- 新院長就任挨拶 …… 1
- 大動脈弁バルーン形成術（BAV）について …… 2
- 山陰労災病院中央放射線部のデジタル画像システム …… 3
- 感染防止相互ラウンドが実施されました　透析看護認定看護師について … 4
- 連携医療機関のご紹介 …… 5
- 新任医師紹介 …… 6～7
- 退任医師紹介・イベントのご案内 …… 8

院長就任のご挨拶

山陰労災病院
院長　豊島　良太

4月1日付けで院長に就任しました豊島と申します。西部地区の医療施設の皆様には鳥取大学医学部勤務の間は多々ご指導とご支援を頂戴し、ありがとうございました。大学本部の6年の勤務を終え、米子に帰ってきました。久しぶりの医療現場に今浦島の感を深めています。

ご存知のように、労災病院は働く人々の生活を医療面から支えるという目的で設置され、山陰労災病院は全国で29番目の病院として昭和38年6月に7診療科、200床でもって開設されました。設立経緯については、整形外科との関わりが深く、西尾篤人第三代教授が鳥取大学整形外科開講30周年誌に「教室が発展するためには密接に協力できる病院が必要と考えて、鳥取、島根の肢体不自由児施設と山陰労災病院の設立に努力しました」と書いておられ、設立と同時に、後に第三代の院長になられた新宮彦助先生が教室助教授から副院長として赴任されました。以後、歴代の院長や職員の皆様のご尽力により、さらには医学部や西部医師会、医療関係の皆様のご指導、ご支援を得て、現在では診療科は23科、病床は377床、勤労者医療に関わるアスベスト医療センター、メンタルヘルスセンター、脊椎腰痛センター、脳卒中センターなどを備えた、地域でも大きな総合病院へと発展してまいりました。

この間、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、脳神経内科などを中心にした内科全般、そして外科、整形外科、脳神経外科をはじめ平成26年4月に開設の小児科、産婦人科などほぼ全診療科にわたって、密接な病診、病病の連携をさせていただきました。本院は理念として、「信頼される・優しい・安全な医療を提供し、地域の皆様と勤労者の健康を守ります。」と謳っています。この理念にのっとり、今後とも良質で優しい医療を提供し続けていきたいものと考えております。皆様にはこれまで以上に本院をご利用いただきたいものと願っております。

本院も開設から今年で56年目となりました。この間、適宜、改築や増築が行われております。しかし、現在では建物の随所に老朽化が見られ、何度かの増築によって動線は長くなるとともにたいへん複雑となり、安全や効率の面で問題が出てきました。大野前院長や執行部のご尽力により、再開発がようやく緒に就き、この5月には起工の予定です。しかしながら、敷地に余裕がありませんので、すべてを一度に建築することができません。まずは西病棟の南側に病棟と外来を、次に東病棟の南側に病棟や外来、検査部門など新築し、最後に新東棟の北側の玄関部分の新設というように工期を分けて整備する予定です。したがって、工事期間も長く、診療のすぐ隣で工事が行われます。この間、療養に支障のないように、患者さんにご不便をかけないように、適切に対応する所存でございます。

皆様には、この後も引き続き、本院にご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

大動脈弁バルーン形成術（BAV）について

第二循環器科部長　足立　正光

当院では「大動脈弁狭窄症」に対して「大動脈弁バルーン形成術（BAV）」を積極的に施行しています。今回はこの治療法をご紹介します。

【背　景】

心臓は大動脈へポンプのように血液を送り出す臓器です。心臓の出口には、送り出した血液が戻ってこないように「大動脈弁」という逆流防止弁がついています。ご高齢の方のなかには、動脈硬化によってこの弁が狭くなり血液が通りにくくなる方がおられます。これを「大動脈弁狭窄症」と呼びます。人口の高齢化に伴いこの「大動脈弁狭窄症」を発症する方が増えています（図１）。この病気は症状が出ると急激に増悪しますが、良い薬が無く外科手術（大動脈弁置換術または経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）しか治療法がありませんでした。しかしながら、ご高齢の患者さんには手術治療が困難な方が多いのです。そこで当院では外科手術との間をつなぐ治療法として「大動脈弁バルーン拡張術（BAV）」を積極的に施行しています。

図１

【対称疾患】

重症の「大動脈弁狭窄症」で

A）外科手術までに全身状態を改善する必要がある場合

B）非心臓手術が予定されていて手術に耐えられる心機能が必要である場合

C）外科手術困難例で症状改善治療が必要な場合

D）外科手術の適応となる可能性が高いが確定できず、診断的治療を必要とする場合

【特　徴】

最近の「大動脈弁バルーン拡張術」には次のような特徴があります。１）静脈アプローチ：従来、大動脈からバルーンを挿入して大動脈弁の拡張を行っていたのに対し、近年は大腿静脈から挿入したカテーテルを経中隔的に左房に挿入し、大動脈弁のバルーン拡張を行うようになりました（図２）。これにより動脈損傷や塞栓症等のリスクが低くなっています。また下肢動脈疾患や大動脈疾患のある患者への施行が可能となります。２）イノウエバルーンの使用：京都大学の井上寛治先生の開発されたイノウエバルーンは独自の拡張パターンにより弁膜への固定が良好であること、拡張と弛緩が迅速であること、１本のバルーンで弁の反応を見ながら拡張径を段階的にサイズアップする事が可能であること、耐久性に優れ多数回の拡張が可能であること、等の特徴があり大動脈弁形成に最適と考えられています。３）心腔内エコーの使用：発達により BAV 中の手技をリアルタイムで観察することが可能となりました。４）心房中隔穿刺法の普及。５）右室頻回ペーシングの併用。６）３次元 CT の導入（図３）。

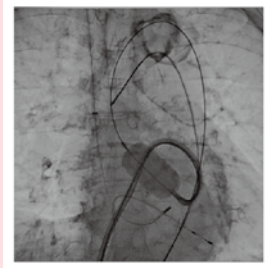


図２

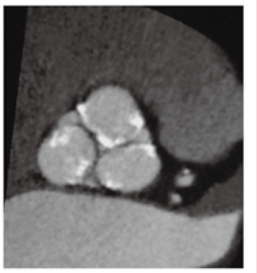


図３

これらの改良により「大動脈弁バルーン拡張術」に伴う合併症は急性大動脈弁閉鎖不全が１％、心タンポナーデが 1.3%、大動脈解離が 0.5% 未満、急性僧帽弁閉鎖不全が１％未満、ショックが１％未満、手技関連死亡が 0.5% 未満と報告されています。

図４に「大動脈弁バルーン拡張術」前後の圧較差改善を図示します。

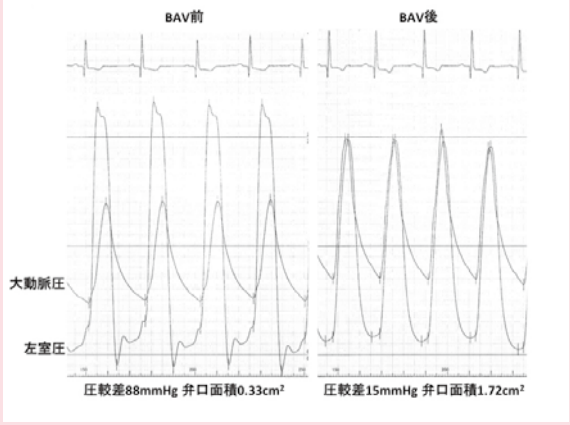


図４

【最後に】

今後大動脈弁狭窄症患者が増加することは確実視されています。「大動脈弁バルーン拡張術」は外科手術に代わるものではありませんが有用な治療法と考えます。該当する症例についてご紹介をよろしくお願いします。

山陰労災病院中央放射線部のデジタル画像システム

中央放射線部長　神野　洋

今日の医療では画像診断が重要な存在となっています。確実な診断ができるように必要な画像情報を素早く電子カルテ上に提供できるように日々努力しています。

CT 画像や MRI 画像の進歩はすさまじく、初期の胸部 CT では 30 スライスで表示していた画像が現在では 1000 スライス前後で表示しています。10 ｍｍごと 30 スライスであった画像が 0.5 ｍｍごと 1000 スライス前後になった事で得られた画像データはボリュームを持つこととなり輪切り像だけだった画像が水平スライス、垂直スライスまでも表示できるように進化してきました。また息止め時間も 1 回 20 ～ 30 秒を 2 ～ 3 回していましたが、今ではほんの 5 ～ 6 秒を 1 回と短くなり受診患者さんには負担も少なく膨大な画像データを提供できるようになりました。当院では 64 列と 80 列の CT を使用し多い日には 1 日 80 名を検査して医師に最適な画像データを提供しています。

また MRI 検査も山陰地方では数少ない 3.0 テスラのＭＲＩを稼動しており、磁場強度が強く短時間で細かい情報やクリアな画像を提供できるようになっています。ＭＲＩはＣＴに比べ時間がかかり、現状では 1 日 20 名程度しか検査できませんが、検査内容の検討見直しも含めもう少し多くの患者さんに利用出来るようにしていきたいと思います。

ＣＴやＭＲＩ検査で得られる膨大なデータはすべて画像サーバーに格納されます。しかしいくら高性能の機器でもそのままではデータ活用が不十分であり、その膨大なデータを生かすのがワークステーションです。当院では同時に 8 か所で作業出来るサーバー型ワークステーションシステムを導入しています。画像データを患者さんにわかりやすく説明できるように 3 Ｄ表示してみたり、読影医や主治医には輪切り像、水平スライス像、垂直スライス像だけでなくＭＩＰ画像やＣＰＲ画像、バーチャル内視鏡、フージョン画像等も作成し主治医のニーズに応じた画像を提供しています。

医療機器はコンピューターの性能が上がりこの 20 年間で飛躍的に性能が向上しました、また今後もＡＩ（人工知能）の導入等による性能向上が予測されます。それに伴い現在では国家資格だけではなく専門認定資格も求められています。当院中央放射線部でも数多くのスタッフに各種専門認定資格取得させ定期的に伝達講習と研究発表行い、スタッフの技術と知識の共有を行っています。今後もすぐれた技術と知識で 365 日 24 時間地域の先生方や住民の皆さんの安全安心に少しでも貢献していきたいと思っています。

（シーメンス：MAGNETOM Skyra）

（富士フィルム：SYNAPSE VINCENT）

感染防止相互ラウンドが実施されました

去る３月４日（月）に当院におきまして感染防止対策に係る相互ラウンドが実施されました。これは施設基準における感染防止対策加算１に係る届出を行っている複数の医療機関（当地域では鳥取大学医学部附属病院、米子医療センターと当院）が連携し、互いに感染防止対策に関する評価を行い関係職員の知識向上を図り感染防止対策に取り組むことを目的として年１回実施しているものです。

今回は、米子医療センターの感染制御チームにより当院担当者への実状聴取・書類審査を行った後、病棟や外来部門、中央検査室、手術室、腎センターをラウンドしてもらい、施設基準で規定されているチェック項目である感染経路別予防策、薬剤や医療器材の管理、医療廃棄物等の状況をチェックしていただきました。

ご指摘いただいた事項については速やかに改善し、院内感染防止対策のより一層の推進に努力していきます。

透析看護認定看護師について

透析看護認定看護師　森岡　万里

透析看護認定看護師は、血液透析、腹膜透析の透析の方法を考えたり、患者さんと家族に対して治療を行うために必要な体重管理や食事面などに介入し少しでも元気に生活が送っていただけるよう支援しています。血液透析患者さんにとっては、腎センターが治療の場だけでなく、生活の一部となるため、安全で過ごしやすい環境となるようスタッフと共に日々心がけています。

また患者さんに関わる看護師に対して腎不全や透析の勉強会を行ったり、実践の中で治療や療養指導に関する指導や相談に乗るなどして看護の向上に関わっています。

保存期の慢性腎臓病（CKD）患者さんに対しては、腎臓病の進行をできるだけ遅らせ合併症の発症を予防することや、腎代替療法がスムーズに行えるよう支援（腎臓病療養指導）を行っています。この背景には、成人人口の８人に一人が慢性腎臓病といわれ、心血管合併症などを発症する人も多いことから発症予防や進展予防が必要となっていることがあります。

当院の腎臓病療養指導は、看護師による生活指導と管理栄養士による栄養指導を一緒に行っています。平成 30 年度は延べ 300 人以上の患者さんに関わることが出来ました。その結果、血圧や体重など自己管理や食事療法が行えるようになり血圧やデータが改善した方も多くあります。

末期腎不全患者さんに対しては、腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の選択説明を行っています。現在 95% 以上の方が血液透析を選択されている現状があります。これは日本の血液透析医療が優れていることもありますが、これまで各治療法の情報提供が行われず、他の選択肢がなかったことも大きな原因と言われています。そのため少しでも患者さんの生活スタイルにあった治療法を選択で出来るよう治療法説明が必要となっているのです。

その他に、腎臓サポートチームのメンバーとして、地域の医療・介護スタッフを対象とした腎不全・透析勉強会や、啓発目的で腎キャンペーン活動を行っています。腎キャンペーンは、「世界腎臓デー in 米

子」と題して年１回３月に米子市内の施設で行っています。慢性腎臓病は早期に発見することで腎機能の改善や維持が行いやすいため、検診の必要性をアピールしています。

　慢性腎臓病や透析について疑問やお悩みの方、勉強会を希望される方などありましたらご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

連携医療機関のご紹介

野坂医院

院長　野坂　美仁
診療科目：内科　消化器科　小児科
住　　所：米子市上新印 256 － 1
Tel 0859-27-0610　Fax 0859-27-5268

　当院はいわゆる新市内で、旧市内から日野川を渡った東方で（箕蚊屋中学校区）大山を正面に周囲は田んぼに囲まれたの箕蚊屋平野のど真ん中に位置します。

　昭和 30 年に先代の野坂美水が開院し、昭和 58 年に改築、昭和 63 年に継承し今年で開院 64 年目となります。消化器内科を専門としつつ、所謂かかりつけ医として高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病の管理から、各種健診や予防接種、園医、学校医そして在宅看取りまで幅広く診療を行っています。

　当院と労災病院との関係と云いますと、私自身昭和 57 年から 59 年にかけて労災病院消化器内科で勤務いたしました。当時は労災病院の第二次増改築と機能整備の時期に当たり、新外来への引っ越しにも携わらせて頂きました。

　また、開業後も労災病院で毎月開催されていた野田会と称する消化器内科の症例検討会に古城先生や三浦先生等のご指導を仰ぎに出かけていたことも懐かしい思い出です。

　現在は労災病院から毎日のように診療情報提供書が届き、また当院からも多くの患者さんがお世話になり、労災病院連携室とはさながら白ヤギさんと黒ヤギさんの手紙ごっこのような状況です。消化器内科に限らず、循環器内科、糖尿病専門外来、脳神経内科、外科、整形外科など沢山の患者さんを紹介・逆紹介を頂いており、野坂医院は労災病院と云う後ろ盾で成り立っていると云っても過言ではありません。

　開業医と病院勤務の先生方の連携は患者さんにとって「二人主治医制」とも云える、また、医師にとっても二重の安心システムです。

　今後も益々連携を深めていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

新任医師紹介 ～よろしくお願いします～

●消化器内科医師

木　下　英　人

①出身大学：鳥取大学
②出身地：徳島県
③特技・趣味：特になし
④自己ＰＲ：平成 31 年 1 月より、消化器内科で勤務しております。鳥取大学卒業後、松江赤十字病院で初期研修を行い、鳥取大学医学部附属病院第二内科に入局致しました。その後は、鳥取県立厚生病院で 2 年間、平成 30 年 12 月までは鳥取大学医学部附属病院で勤務しておりました。消化器疾患、特に消化管、胆膵疾患を中心に担当させていただいております。地域の医療に少しでも貢献できるよう、日々精進致しますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

●第二外科部長

柴　田　俊　輔

①出身大学：鳥取大学
②出身地：鳥取県
③特技・趣味：特になし
④自己ＰＲ：平成 31 年 4 月から外科で勤務しています。鳥取大学第一外科の出身で消化器外科、内視鏡外科を中心に診療を行っています。鳥取市内の病院に長く勤めていましたが、この度山陰労災病院に異動となりました。地域の医療に貢献できるように努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

●第二心臓血管外科部長

藤　原　義　和

①出身大学：鳥取大学
②出身地：兵庫県
③特技：縦列駐車
　趣味：ウクレレの購入を検討しています
④自己ＰＲ：前任の仁井陸冬先生と交代で、鳥取大学病院から着任いたしました。これまでは、主に血管疾患の治療に従事していました。この度、山陰労災病院に着任したのを機に、心臓疾患から末梢動脈、静脈まで、幅広く力を入れていこうと考えております。改めて基礎から勉強を行おうと考え、心臓聴診の教科書を購入しました。あとは紛失（盗難？）した聴診器を購入する予定です。皆様よろしくお願い申し上げます。

●脊椎整形外科部長

土　海　敏　幸

①出身大学：鳥取大学
②出身地：鳥取県東伯郡湯梨浜町
③特技・趣味：バスケットボール、テニス
④自己ＰＲ：平成 31 年 4 月より整形外科で勤務しております。整形外科医として 17 年目になります。専門領域は脊椎脊髄外科です。伝統のある山陰労災病院で脊椎外科を担当させて頂くことになり、身の引き締まる思いです。
　丁寧な診療を心掛け、的確に診断し、適切な治療を行いたいと考えております。鳥取県西部地区の医療に貢献できるよう精進します。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

●第三小児科部長

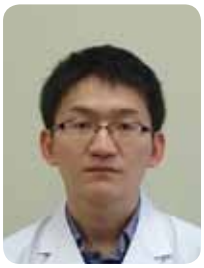
宮　原　直　樹

①出身大学：鳥取大学
②出身地：大阪府
③特技・趣味：小説、食べ歩き
④自己ＰＲ：鳥取大学卒業後は、途中で 2 年間鳥取県立中央病院に勤務しましたが、その時期以外は鳥取大学医学部附属病院小児科で小児内分泌領域を専門に診療してきました。また、昨年度は不登校や摂食障害といった子どもの心の問題について、静岡県立こども病院こころの診療科で 1 年間の研修を受けてきました。子どもらの心身の健康のため、家族や教育機関、地域、福祉などの協力をいただきながら診療できるよう精進したいと思います。

●糖尿病・代謝内科副部長

本　田　　彬

①出身大学：順天堂大学
②出身地：鳥取県米子市
③特技・趣味：ゴルフ
④自己ＰＲ：順天堂大学を卒業後、同大学代謝内分泌内科学に入局、東京で研鑽を積んで参りましたが、昨年、大学時代も含めて 17 年ぶりに故郷に戻り鳥取大学第 1 内科に入局致しました。
　この度、山陰労災病院に着任するにあたり糖尿病・内分泌・甲状腺専門医として少しでも地域の皆様の健康に貢献できましたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



●循環器科医師

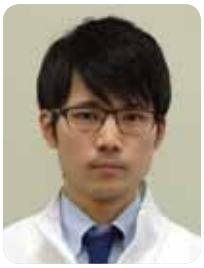
網　崎　良　佑

①出身大学：鳥取大学
②出身地：鳥取県米子市
③特技・趣味：なし
④自己ＰＲ：平成 31 年 4 月より循環器科で勤務しております。鳥取大学卒業後 2 年間山陰労災病院のプログラムで研修し、その後鳥取大学循環器内科へ入局し同院で 4 年間勤務し、医師としては 7 年目で再度山陰労災病院での勤務となりました。再び初期研修をした病院で働けることとなり喜んでおります。改めて初心を思い出し、日々の診療に取り組み研鑽を積んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●呼吸器・感染症内科医師

野　中　喬　文

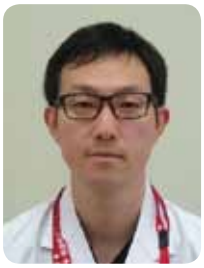
①出身大学：鳥取大学医学部
②出身地：岡山県
③特技・趣味：バレーボール
④自己ＰＲ：平成 31 年 4 月より呼吸器・感染症内科で勤務しております。鳥取大学卒業後、大阪の北野病院、鳥取大学医学部附属病院で初期研修を行い、その後鳥取大学第 3 内科に入局し、閉塞性肺疾患・感染症・肺癌・膠原病など呼吸器・膠原病疾患を中心に一年間診療を行ってきました。また、人工呼吸器管理など集中治療にも興味を持って日々診療に取り組んでおります。まだまだ未熟ではありますが、皆様のご期待に添えるように日々精進する所存です。ご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。



●泌尿器科医師

山　根　浩　史

①出身大学：鳥取大学
②出身地：兵庫県
③特技・趣味：テニス
④自己ＰＲ：よろしくお願い申し上げます。



●消化器内科医師

木　原　琢　也

①出身大学：鳥取大学
②出身地：鳥取県
③特技・趣味：野球観戦
④自己ＰＲ：平成 31 年 4 月より消化器内科で勤務しています。鳥取大学卒業後、初期研修を鳥取大学と松江市立病院で行い研修を修了しました。住み慣れた米子の地で医師として働けることをうれしく思います。まだまだ未熟ではありますが、消化器内科として地域に少しでも貢献できるように日々努力して参りますので、どうぞよろしくお願いします。

●外科医師

澤　田　将　平

①出身大学：鳥取大学
②出身地：鳥取市
③特技・趣味：陸上競技観戦
④自己ＰＲ：この度、平成 31 年 4 月 1 日より山陰労災病院の外科に勤務することになりました澤田です。平成 29 年 3 月に鳥取大学を卒業し松江市立病院で 2 年間の初期臨床研修を修了し、鳥取大学第一外科に入局し消化器外科を専攻することとなりました。
　外科医としての第一歩を山陰労災病院で過ごせることを大変光栄に思います。皆様のご指導の程よろしくお願い申し上げます。

退任医師 ～お世話になりました～　3月31日付

●院　長	大　野　耕　策	●循環器科医師	中　村　研　介
●第二外科部長	山　根　成　之	●外科医師	菅　澤　　健
●放射線科部長	井　隼　孝　司	●心臓血管外科医師	仁　井　陸　冬
●消化器内科副部長	川　田　壮一郎	●初期臨床研修医	児　玉　福　美
●腎臓内科副部長	山　本　真理絵		
●整形外科副部長	築　谷　康　人	4月30日付	
●小児科医師	前　島　　敦	●産婦人科医師	中　曽　崇　也
●糖尿病・代謝内科医師	松澤(庄司) 恭子		
●呼吸器・感染症内科医師	角　南　良　太		

イベントのご案内

看護の日記念行事

日　時　平成31年5月17日（金）9：00～11：30
場　所　山陰労災病院　玄関ホール他
テーマ　「看護の心をみんなの心に」
内　容
- ♥入院患者さん、透析患者さんへお見舞い（病棟・腎センター）
- ♥測定コーナー（玄関ホール）
  - ・血圧、血糖、筋肉量、体脂肪・体水分、味覚チェック等
- ♥来院者に記念品を配布（先着500名）
- ○パネル展示（5月13日～17日：玄関ホール）
  認定看護師活動紹介、看護ケア風景紹介、働くお母さん・お父さんの絵

※通院中の患者さん等に御紹介いただければ幸いです。